

福井県民の将来ビジョン 地区別意見交換会まとめ〔農林水産業〕

地区 テーマ	奥越	若狭	二州（敦賀市、美浜町）	坂井地区および永平寺町	丹南	福井
人づくり		○子供達も参加して耕作放棄地で稲作を行うキッズ・ファースト活動をした。農業だけではなく、環境や食を考える契機にもなる。大人たちだけではなく、子供達を巻き込んだ地域活動をしてほしい。	○人づくりに関しては、いい意味での田舎化が必要。将来の発展とバランスを取りながら推進するとよい。		○高齢社会では、地域のお年寄りが生活し易い環境があるとよい。農的生活を基本とし、食育を取り入れていくような方向性を希望する。 ○子どもたちが故郷のことをよく知らないで大きくなっている。学校、家庭において体験を通じたふるさと教育を実践するとよい。	
元気なコミュニティづくり	○コミュニティ維持のために、地域の伝統文化や行事の継承していくことが重要。	○限界集落では三世帯世帯の良さを活かす必要があり、そのためにも、県内において労働の場を創出することが不可欠である。	○耕作放棄地が増加し、豊かな自然が無くなることを危惧したのをきっかけに農事組合法人を立ち上げた。都市からの農業体験を受け入れ、交流を図ることで和が広がっていった。	○永平寺町の伝統料理に、油桐の葉っぱで包む鱒のお寿司がある。遡上してきたサクラマスを使うのが本当の鱒寿司で、現在は激減し輸入のものを使っているが、10年後にサクラマスの遡上数が今の約10倍に回復できれば、伝統料理が再現できる。	○農業、林業、伝統工芸などは技術やノウハウを世代を越えて継承していく必要があり、「知恵袋」として高齢者を活用すべきである。	
環境	○小原ECOプロジェクトのような環境保全のビジネス化を支援する仕組みがあるとよい。 ○亀山や弁天等の桜の名所を保存する政策を行って欲しい。そのためには、長期的な視点に立ったランドデザインが必要。 ○サトイモ洗い機や用水の落差を利用した発電ができないか。	○以前、レストランで食べ残しの持ち帰り運動があったが、もっと身近で実践すべき。			○ありのままの自然を体験できるグリーンツーリズムを希望する方が増えており、積極的に推進すべき。 ○環境と産業の両立は中小企業では困難。行政の支援が必要。 ○県外に住む友人が、福井の田園風景を見てホッとすると語っていた。観光面でこのことを売りにすべき。	○環境保全に対して県民の意識レベルに差がある。腰を落着けた着実な取り組みが必要。 ○林業は、森林の荒廃、後継者問題など危機的な状況にあるが、最終的には木材価格の低下に行き着く。木の価格は安くてもよいが、県産材の積極的に使用して欲しい。 ○農業は、村、まちに産業を興すという視点が必要。生産から販売、地産地消、環境産業、観光までを含めた立体的な農業モデル地区づくりを進めるべき。
まちづくり	○都市へ流出した人を福井へ戻すには、「今」あるものを「今」に残す視点からのまちづくりが重要である。	○ふるさと教育やふるさとへの愛着とまちの景観をどのように保存するかは深い関わりがある。特色ある景観づくりを進めるべき。	○年間へしこ30万本を生産している。昔はさばが安かったが、今、消費者からへしこが高いと言われる。さばがもっと安く手に入らないか考えて欲しい。	○都市には農林業に関心のある若者が多いと聞く。そのような若者を派遣する事業により、地方と都市の若者の交流を促進して欲しい。 ○都市部の若者は農村で暮らしたい人が多く、定住希望者へ仕事を斡旋すると人口が増えると考える。	○都市では地域志向の若者が増えており、地方と都市の両方で生活できるライフスタイルの構築により新しい産業や雇用が生まれるのではないかな。 ○雑誌のアンケートによると、福井県は日本で一番印象の薄い県、即ち、福井県自体にパワーが無いと言える。パワーがないなら人を呼び込むべきで、田舎を売り込む方策を考えると大事。	
産業	○奥越地域の物産が一堂に集まり購入できる「道の駅」のような施設が必要。 ○観光のトレンドは、見物型から体験型、さらに今後は、長期滞在実践型に変わり、何処に行くかではなく、行った先で何をすることが重要視されるだろう。 ○国の農業政策の変化が激しく対応できない。県でわかりやすくまとめて説明するなり、極端な変更を和らげることはできないか。規模拡大や低コスト化で後継者が農業を継ぐことが大事。	○Uターンの促進には、希望者の受け皿づくり（仕事の選択肢の拡大）が必要。 ○ここ10年間、材価が下落し、林業をやる気が出ない。10年後の材価を保証できるようなビジョンを示して欲しい。 ○農業においては、水田における戸別所得補償の導入によって園芸が少なくなるのではないか心配である。今の制度では、皆が米や穀類の生産に流れる。国政が変わっても県が頑張る姿勢を示し、米と園芸を両輪として進めてほしい。	○道路が良くなりすぎて敦賀を通過していく人が増えるのではないかな。半島ごとに温泉を作ってはどうか。冬にふぐ、カニなど美味しいものと結びつけて通ってもらうのがよい。 ○敦賀新港の整備が進んでいるが、港がよくなればなるほど防波堤の延伸により、魚が湾岸へ入ってこない。また、波の流れが変わり浜の侵食が進んでいる。港の繁栄も大事だが、我々漁業者のことも考えて対応して欲しい。	○10年後を考えた時、農業従事者の確保と農業所得を増やすための方策が課題。	○漁業においては、付加価値があり、価格の落ち込みが少ない「越前カニ」のような「魚ブランド」の構築と情報発信をする必要がある。 ○県外に住む友人が福井の田園風景を見てホッとすると語っていた。観光面でこのことを売りにすべきである。	○若者が福井に帰ってこないのは、大きな産業が欠けているからである。優秀な人材が育つ産業、優秀な人材を活かせる産業の誘致を進めるべき。